

くらしの作文

kurasaku@chunichi.co.jp

2020.1.27

昨年春、祖母が亡くなった。もともとがんを患っており、二十三年間も闘病し続けていた。

祖母は優しく、強い女性だった。正月やお盆に会いに行くと、笑顔で迎えてくれて、果物や和菓子を出してくれた。料理も上手で、私の家族にお裾分けもしてくれた。

中でも私は、ユスラウメのシロップが大好きだった。甘みの中に、ほのかに感じられる酸味。オレンジがかった赤色のシロップで、飲むときは皆より少し多めにシロップを入れてもらっていた。実もそのまま入っていて、スプーンですくって食べた。祖母がいなくなってしまう

ユスラウメのシロップ

小林 せらな (三重県鳥羽市＝大学生・19歳)

くたつたが、実家の冷蔵庫にはそのシロップが残っていた。両親は私が好きなことを知っていたので、「飲んでもいいよ」と言ってくれた。けれど飲んでしまうと、もう二度と祖母の作ったシロップが飲めなくなってしまう。祖母がいなくなったことを感じなくなくて、なかなか飲めなかった。

今でもよく、祖母の顔が思い浮かぶ。めいっばい愛情をくれた分、悲しくて泣きそうにもなる。

祖母は、私にたくさんの強くなれる言葉をくれた。そんな思いやりと、心の強さを持った祖母のような女性になりたい、と心から思う。

※アナウンサーの音読が東海テレビ・ホームページで聴けます。